

教育活動への取り組み（要約）	自己評価（右端は自己採点・5段階）	
1 学習指導 ア スモールステップを活用して自己効力感を養い、「自発学習」する生徒を育てる。 ・学習到達目標を明確にし、小さな達成感を積み重ねて自己肯定感を育む。 ・毎回の小テストや自宅学習の工夫で「自発学習」を習慣づける。 ・基礎力診断テスト結果を活用し、外部模試も積極的に受験させる。 イ 長期休業日中にも学習指導を切らさない。 ・補講等を活用して、検定試験や模擬試験等の受験を積極的に奨励する。 ・社会体験実習を推進し、マイレージを伸長させると共に主体性・協調性を高めさせる。 ・「みのりゼミ」などを充実させ、ワンランク上の学習活動を促す。 ウ 授業の質を向上させる。 ・アクティブ・ラーニング推進校であった成果を活用し「考える」授業を推進する。 ・ALCM コミュニティ指定校として、研究授業や授業公開に取り組む。 ・ICT機器を使った授業の工夫・研究して、授業理解に活用する。 ・オンライン英会話を試行し、4技能の着実な定着を推進する。	学習内容が理解できているか、問に対して「あてはまる」「ややあてはまる」が84%であった。 解ったと感じる場面があるか、問に対して「あてはまる」「ややあてはまる」が88%であった。 ・校内実施の外部模試も受験者が延べ300名を超えた。 検定対策講座を適宜実施し、英検では2級6名、準2級14名が合格、漢検では2級7名、準2級26名が合格した。 ・社会実習はほとんど実施できなかった。 ・長期休業中の補習を組織化し、64講座実施したが、みのりゼミは2つに減少した。進学志望の増加に伴い、次年度は進学希望者の支援を活性化していく。 教材の工夫など解り易い授業か、の問に対して「あてはまる」「ややあてはまる」が86%であった。 ・コミュニティ参加校とは十分連携できなかった。 ・2月に全生徒を自宅学習として、オンライン授業を実施した。次年度はICT化を学校経営計画の柱に据え、強力に推進する。 ・オンライン英会話は、着実に取り組み事業継承を図った。	4
2 進路指導 ア 組織的なキャリア教育を確立する。 ・1年次から卒業年次までの一貫したキャリア教育を確立する。 ・個々の生徒に対応できるシステムを模索する。 イ キャリア教育を通して社会的な自立を促す。 ・1年次のキャリア教育により、社会の中での自他の肯定感を高めるとともに、ピアサポート（仲間同士の支え合い）による学校生活への定着と、コミュニケーション能力の向上を推進する。 ・キャリアパスポートの導入を受け、e-ポートフォリオを活用して、生徒自らが自立した進路活動ができるよう支援する。 ウ 「社会的な自立」を実現する指導を行う。 ・マイレージを活用して、ボランティア活動やインターンシップ、上級学校訪問等に積極的に参加させ将来設計につなげる。 ・ハローワークや若者サポートステーション等の外部機関と積極的に連携する。 ・自立のための社会性やマナーを育成する指導を推進する。	ア 卒業生144名。進路決定率は65.2%であった。内訳は、大学36名、短大6名、専門学校41名、就職・各種学校11名、その他であった。 ・キャリア教育は教育課程の再編を見越して、次年度再構築する。 イ ・学びあい学習など、コミュニケーション学習に取り組んできたが、接触防止の観点から十分取組できなかった。ICT機器を使用した実践も開始している。 ・e-ポートフォリオの活用を促しているが、生徒の意識は、まだ十分とはいえない。 ウ ボランティアは地域から深く感謝されており、地域①の48%が「地域ボランティアに参加を期待している」と回答した。感染症対策からボランティア受け入れ先が減少し派遣に苦慮した。 ・練馬サポステが「校内カフェ」を9月から月2回程度実施した。来年度以降も継続する。 ・地域①の19%がマナー指導は十分ではないと回答した。全教員の意識統一を図ることが必要である。	3

教育活動への取り組み（要約）	自己評価（右端は自己採点・5段階）	
3 生徒指導 「自他のチャレンジを尊重する」を合言葉に、全教職員で組織的な生活指導を推進する。 ア 安心安全な学校を創るとともに、いじめや体罰を根絶する。 ・人権尊重の精神で、他人のチャレンジを邪魔しない意識の育成。 イ 落ち着いた学校生活をおくらせる。 ・ノーチャイム制により、スケジュール管理の能力を身に付ける。 ・全校で「笑顔で挨拶」を励行する。 ・校服の正しい着用（特にスカート丈）と身だしなみ指導の推進。 ・コミュニケーション力を向上させ社会で活動するためのマナーを身に付けさせる。 ウ 文化祭、みのり杯、進路体験行事を充実させる。 エ 生徒の自主性を育てるHR活動や生徒会活動を推進させる。 オ 部活動を活性化し、課題解決能力とコミュニケーション能力を身に付けさせる。 カ オリンピック・パラリンピック教育を通じ、国際理解や異文化理解について取り組み・継続していく。	3 生活指導で大きな乱れはないが、指導する方針の統一性を再度確認していく。 ア いじめや類似行為は、統計ではでなかったがSNSでのトラブルは散発しており、指導に取り組んでいく。・授業規律を守らない生徒一の指導があるか、問に対して「あてあまる」「ややあてはまる」が86%。・「自他のチャレンジを尊重する」を絶えず伝え、指導を繰り返して生徒に浸透させてきた。 イ 遅刻は、1日あたり1.6人であった。・挨拶はするようになってきているが、まだ十分とはいえない。・校服の着こなしは、ほぼできているが、コート等の着用について方向性を整理する必要がある。 ウ みのり杯は中止。文化祭は『稔校内発表会2020』として校内限定で実施したが、従来どおりの形式を希望する生徒が多かった。 エ 生徒会の自主性を育てるため、制服の在り方や目安箱の工夫などに取り組んだ。 オ 部活動の参加率は約40%にとどまったが、バレーボール部など躍進したものもあった。 カ オリンピック・パラリンピック教育は十分でなかった。	3
4 教育相談・保健指導（心と体の健康づくり） ア カウンセリング委員会を中心に種々の相談機能（スクールカウンセラー、自立支援チーム、みのりの場、スクールソーシャルワーカー等）を向上させる。 イ 情報交換会における生徒情報を活かし、特別支援教育コーディネーターを中心に配慮を要する生徒の支援の支援を行う。 ウ いじめの未然防止と早期発見に努める。 エ スポーツの楽しさと健康管理の大切さを知る機会を設ける。	4 ア 教育相談部を設立し、外部専門家等を管掌させ課題の一元管理を行って問題の早期解決、全校体制での取り組みに努めた。 イ 個々のケースごとに対応しているが、個々の生徒の課題はまだ大きいものがある。 ウ いじめと認定する事案は発生しなかった。 エ 体育での活動が制約されるとともに部活動も制限されて、自主的活動が思うようにいかなかった。また、保健室来室者も増加し、頻回来室者(月5回以上の来室者)も増加した。	4
5 募集・広報活動 ア 各種説明会を通して受検生や保護者、中学校、適応指導教室等への学校理解を深める。 イ 入学者選抜の結果を分析し、今後の改善に活用する。 ウ Web ページを充実させ、中学校や適応指導教室等に情報を発信し、募集・広報活動の改善・工夫する。	5 ア 学校説明会の参加者は1500名を超えた。とくに隣接の区立中学校33校には直接訪問して、詳細な説明を行った。 イ 特定の地域から応募者が少なくなっている。 ウ HPを随時更新して本校の取組を発信した。とくに来校できない入学希望者や保護者に対して教育の取組を動画や静止画、コメント等様々な形で掲載して情報発信に努めた。	3
6 地域交流、保護者 ア 幼稚園や小・中学校、特別支援学校、町会、社会福祉協議会等、地域の関係機関との連携を強化する。 イ ボランティア教育推進校として、生徒のボランティア活動を奨励し、地域との交流活動をより一層推進するなど、ボランティア教育を強化す	6 ア 地域で開催される行事や会合には(中止等で)、残念ながら参加できなかった。 イ ボランティアは一部の派遣にとどまった。しかし、ボランティア部がマスク作成・寄贈などに取り組んだ。	2

教育活動への取り組み（要約）	自己評価（右端は自己採点・5段階）	
る。 ウ 「みのり保護者の会」及び「卒業生の会」の組織化に協力し、連携を図る。 エ 災害に備えた校内体制を整える。（学校安全・防災対策委員会） オ 震災を想定した防災訓練及び備蓄を実施する。	ウ 保護者の会等と連携し、一般者向けの「お茶の会」などで協力を仰いだ。「卒業生の会」は会長の交代で継続して連携していく。 エ 安全衛生委員会で役割分担の確認を行った。 オ 物品の点検や入れ替えを全職員で行った。	
7 経営企画室 ア 教員との連携を強化し、経営参画型の企画室を構築する。 イ 効率的な予算執行を通して、学校経営計画を具現化する。 ウ 都民の教育ニーズを的確に把握して、行政的視点から学校経営に反映する。	7 ア 施設管理、予算執行、サービス管理等の分野で企画室から提案があり、改善につなげた。 イ 予算執行では計画的な実施ができ、センター執行率などを達成した。 ウ 地域住民からの要望などはコロナ対応で減少したが、学校の施設環境の維持等に腐心した。	3
8 環境整備担当 ア 清潔で安全な学校環境を維持整備する。 イ ゴミの分別指導や共通部分の清掃を徹底する。 ウ 修理・修繕を迅速に手配し、円滑な教育活動の推進に寄与する。	8 ア 美化委員と清掃員が連携し環境が保てている。 イ ゴみの分別は生徒と教員の90%ができていると回答。 ウ 修繕等の対応は迅速にできたが、支援センターに依頼する修繕では次年度以降の案件になっている。	3
9 図書室 ア 生徒の「読みたい」「知りたい」読書環境を充実させる。 ・生徒の自発学習・自発読書環境を整備する。 ・授業に資する本を推奨するとともに、図書館を積極的に授業で活用する。 イ 英語多読ルーム、多読コーナーを充実させる。 ・英語における自発学習環境を整備する。	9 ア 各教科から、授業で推奨する書籍をシラバスに掲載するなど工夫した。 ・コロナ感染症対策として、消毒や清潔感の維持に努め、図書館教育を維持した。 ・授業での図書館活用は、ソーシャルディスタンスのためあまりできなかった。 イ 英語の多読は、一年生は授業として週1時間実施することとして取り組んだ。	4
10 研究・研修 ア 令和4年度改訂学習指導要領の実施に向け、各教科で検討研究する。 イ 研究課題を設定して、全校で取り組む。（指導部指定） ・アクティブ・ラーニングの向上（指導部指定） ・生徒の自己肯定感について（研修センター指定） ・人材育成と自己研鑽をめざし、研修研究を積極的に行う。	10 ア ループリック評価について、全教員で取り組み全教科がまとめ発表した。次年度は観点別評価について取り組む予定。 イ 研究を目的とした先進校視察等は、中止になった学校が多く、思うように実施できなかった。 ・アクティブ・ラーニングは今年度も取り組み、スマホのアプリを使った取組も行われた。 ・「自尊感情の研究」では国語科が研究授業を行って研修センターからの視察を受けた。	3

※①は地域に依頼した『学校評価アンケート』、②は生徒による『授業評価』

次年度の課題

- 1 授業や学校行事の工夫・改善を通じて、「わかる」授業や「できた」といえる授業に取り組んでいく。
- 2 ICT 教育及び ICT 機器の利用を全面的に推進していく。
- 3 令和4年度における学習指導要領実施に向けて、各教科で研究—とくに観点別評価—に取り組む。
- 4 都教育委員会の ALCM コミュニティの指定をもとに、各教科・科目の見方や考え方を追究する授業の実践を継続する。また、英語教育を中心にグローバル教育を推進する。
- 5 進学指導のための「みのりゼミ」や講習会を推進し、生徒の多様な教育ニーズに応えていく。
- 6 生徒の興味・関心や進路に応じた、キャリア教育科目の整理再編について着手する。
- 7 引き続き中途退学者を減らし、卒業者を増やしていく。
 - ・目標 中退率 5%未満、卒業者 毎年 180 人
 - ・ピアサポート（生徒同士の支え合い）の導入により、中退率を減少させる。
- 8 ボランティア活動の拡充を図って、地域と連携した活動を展開していく。
- 9 部活動を活性化して、加入者の増加をはかり、活気ある学校づくりに取り組む。
- 10 心と体の健康管理について、カウンセリング委員会を中心に情報共有化を進める。
 - ・教育相談部を軸となって、外部専門家との連携や専門性の確保に努め、困難事例の解決にあたる。
 - ・みのりの場の運用について再検討し、生徒の幅広いニーズに応じるよう試みる。
- 11 生徒の授業出席率の向上を図る。
 - ・70%台であった授業出席率を 75%に向上させる。
- 12 アクティブ・ラーニングをはじめ、喫緊の教育課題に関係する校内研修を充実させ、本校のグランドデザインに基づき、生徒の実態に応じた柔軟な教育が継続的に行われるようにする。
- 13 生徒の自尊感情や自己肯定感について、調査研究を行う。その取組を踏まえ、授業を含めた教育活動で生徒の自己肯定感の向上を図るよう企画する。
- 14 生徒の定員増に備え、施設・設備を整備・充実させるとともに、生徒の居場所づくりを推進する。
- 15 災害対策として、夜間を含めた対策など、関係各部署や地域と連携した取組を行っていく。
- 16 経営企画室員と教育系職員の連携協力体制を緊密化し、効率的な学校運営を行っていく。